

く切れ込む点で区別できる。

参 考 文 献

井上 寛 (1982) 日本産蛾類大図鑑, 講談社.

神戸市山田町の蛾 (続報 III)

松 本 健 嗣

1. フユシヤクモドキ (ハマキガ科) *Tortricodes ignavana* Christoph
1984年 3月 20日 1♂ 北区山田町字藍那
3月下旬藍那の集落内外のシラカン, アラカン, シイ, コナラ等の多い林中の灯火下でよく見かける。
2. モモプトスカシバ (スカシバガ科) *Mellitita japona* Hampson
1975年 7月 28日 2♂♂ 1♀ 山田町原野
成虫は昼間アマチャズルが生じた場所を飛ぶが, 小生は同年 12月その蔓よりゴール (虫えい) を採取, 翌 1976年 6月 15日 1♂ が羽化した。オオモモプトスカシバの食餌植物はカラスウリであることが知られているが, 北米大陸産の *Mellitita satyriniformis* 種は好んで南瓜等の蔓に食入すると言う。Mellitita 属の食餌植物はいずれもウリ科植物らしい。
なお, 小生山田町では Aegeriidae スカシバガ科の蛾は都合 13 種を採集している。
3. チャオビフユエダシヤク (シヤクガ科) *Phigaliohybernia fulvifula* Inoue
1985年 3月 14日 5♂♂ 山田町字藍那
本種は従来非常に稀種として扱われていたが山田町のみならず六甲山麓のアラカン, コナラを主体として雑木林には大低おり, 且つ個体数も多い。
その他所謂フユシヤクと称されるシヤクガ科としては,
1) シロオビフユシヤク (12. 1月), 2) クロテンフユシヤク (2. 3月), 3) ウスパフユシヤク (1月), 4) ホソウスパフユシヤク (3月), 5) ナミスジフユナミシヤク (1月), 6) クロオビフユナミシヤク (12月), 7) シロフフユエダシヤク (2. 3月), 8) クロスジフユエダシヤク

(12月), 9)チャパネフユエダシヤク(11.12月), 10)シモフリトゲエダシヤク(2.3月), シロトゲエダシヤク(3月)及び上述のチャオビフユエダシヤク(3月)の都合12種が六甲山麓の雑木林で普通に見られる。

4. ウズミケンモン(ヤガ科) *Apatele carbonaria* Graeser

1973年8月28日 1♀ 山田町北甲栄台

小生藍那地区環境調査(1979)には採集日を7月2日と記したがこれは誤りであったので訂正する。本種は日本では主に関東、中部地方の低地のクヌギ、コナラ林で得られているが、それらの採集時期はいずれも4月である。

5. ホソバミドリヨトウ(ヤガ科) *Euplexia literata* Moore

1973年10月7日 1♂ 山田町北甲栄台

西日本に産し本州では他に京都比叡山, 三重県滝原町, 和歌山県大塔山, 奈良県十津川村, 滋賀県比良山, 鳥取県大山での採集例であるが, それらの地はいずれも深山の自然林(原生林)である。だが小生が採集した地点は一見何んでもない二次林である。

6. ウスイロキシタバ(ヤガ科) *Catocala intacta* Leech

1964年7月1日 1♂1♀ 山田町字原野

1984年6月28日 1♂ 字藍那

1984年7月12日 1♀ 同上

山間のアラカシのかなりの大木で成育する。

参 考 文 献

保育社; 原色日本蛾類図鑑上・下

北隆館; 原色昆虫大図鑑I

日本蛾類学会; 蛾類通信 No.61 (1970), No.96 (1978), No.101 (1979), No.116 (1982)。

三重昆虫同好会; ひらくら No.5 (1961)

兵庫県自然保護協会鈴蘭支部; 藍那地区自然環境調査(1979)

G.P. PUTNAM'S SONS (New York); FIELD BOOK OF INSECTS (1918)

ウズミケンモンをご同定頂いた 杉 繁郎 先生に深謝する。